

景観の演出

1 看板・サインの景観デザイン

標識・掲示板、案内板、屋外広告など、まちにはさまざまな種類、デザインの看板・サインが出されています。たくさんの看板・サインが無秩序に置かれると、まちなみが乱雑になってしまいます。特に屋外広告物は、その設置形態、設置位置、大きさ、色などについて十分な配慮が求められます。よりよい地域景観を形成する上で、必要性の低い物を整理したり、良質のデザインを施すことによって、すっきりとしたまちなみをつくりだすことが大切です。また、公共的なサインの設置にあたっては、ターミナル、地下街など、人の多く集まる場所で、わかりやすいサインの設置を進める必要があります。この場合、そのデザイン、設置箇所、標記内容、国際化対応等について、体系的なサイン計画やマニュアルを策定し、地域案内図やランドマークサインを含めた総合的なサイン整備をはかることが重要です。

質の高いデザインを施す



建物やまちなみと一体的にデザインする



必要性の低いものを取り除いたり、まとめるなど数を減らす



unnecessary 装飾は避け、シンプルなデザインとする



2

身近な花と緑の景観デザイン

市民が自ら手塩にかけ育てている花や緑がいろいろな所で見られます。花や緑を育てることは、だれでも気軽に始められる景観づくりです。大きな場所がなくても、庭先やマンションのベランダなどちょっとしたスペースを利用して育てることができます。市民ぐるみの景観づくりの手掛かりとして、身近なまちを花や緑で飾る活動をまちじゅうで展開します。住宅地の緑だけでなく、商業業務地では企業が中心になって、また、公共空間では行政が主体になって、身近な緑化を進めていくことが大切です。

市民ぐるみでまちを花と緑で飾る



ちょっとしたスペースに花や緑を置く



3

彫刻・モニュメントの景観デザイン

彫刻やオブジェを設置することによって、空間に個性を与えたり、空間を引き締めたりすることができます。待ち合わせするのにわかりやすいモニュメントのある空間や、環境アートをゆっくりと楽しめる場所を整備し、芸術文化の香りあふれる演出をまち全体に展開します。彫刻やモニュメントの設置の際には、まち全体のトータルな景観デザインという視点から、設置場所の特性をよく見きわめ、場所性を生かすデザインを行います。

※「『まちのアート』を考える」参照



空間全体を一体的にデザインする

設置場所や周辺のまちなみの特性を考慮する



人々に親しまれるデザインを施す



4

色の景観デザイン

色彩は景観に大きな影響を与える重要な要素です。空や山、水といった自然の色だけでなく、建物の色、看板の色など、まちにはたくさん色があります。まずは、調和を乱すような突出した色彩の使用を避け、まち全体の整合をとることが必要です。また、一定の地域での人工物の色彩をコントロールすることにより、まちなみとしての色彩の調和をはかることが大切です。

※「大阪市色彩景観計画ガイドブック」参照

見ることによって楽しさや安らぎが
感じられる彩色を行う



地域や施設全体の景観調和をはかるため、
色彩設計を行う



まちなみとしての統一感やリズム感が
感じられる色彩のデザインを行う



5

夜間景観のデザイン

夜をゆったりと心豊かにすごすための演出として、美しい夜間景観は今後ますます重要になっていくことでしょう。このため、ランドマークとなる建造物のライトアップを進めるとともに、季節感やストーリーのある光の演出を行うなど、トータルに都市の夜間景観を演出します。また、道路照明やライトアップのほかにも、住宅や店舗の窓からこぼれてくる光、ネオンサインなど、まちのなかにはいろいろな光が存在します。これらを適切に組み合わせ、夜間景観のデザインを行うことも大切です。

※『「まちの明かり」を考える』参照

ライトアップにより夜のランドマークや名所をつくる



イルミネーションなどにより季節感のある夜の散策空間を演出する



商業地では照明サインなどをうまく活用し、にぎわいの景観を演出する



パイプシャッターやショーケースを使用し、夜間も歩いて楽しいデザインとする

